

2050年県内人口80万人減

厚労省推計

伊豆、中山間地域半減も

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所がまとめた2050年までの全国の自治体の将来推計人口によると、本県の人口は20年の363万人から50年には282万人と約80万人(22・1%)減少する見通しとなった。自治体別では全35市町で減少し、特に伊豆地域や中山間地の一部地域は20年からの30年間で5割以上減少すると試算された。全市町で65歳以上の高齢化率も上がるとされ、人口減と高齢化が今後も一層進行する見込みが鮮明になった。

＝関連記事3、5面へ

20年の人口を100とした場合の50年の人口は、長泉町が最も高い94・1。袋井市91・6、菊川市86・3と続き、減少はするものの高水準で推移すると推計された。磐田、掛川両市も80

を超え、中東遠地域の減少率の低さがうかがえた。一方、最も低かったのは川根本町の38・5。西伊豆町40・5、松崎町47・0、東伊豆町48・5、伊豆市49・7と続き、伊豆地域の複数の

市町で50を割った。高齢化率が40%を超える市町は20年時点で熱海市、伊東市など伊豆地域を中心に10市町だが、50年には23市町を超える見通し。50年の最高は東伊豆町の60・6

%、最低は長泉町の31・8%だった。30年間の上昇幅では御前崎市が15・4%と最も高く、清水町が14・3%、伊東市が13・6%と続いた。0～14歳の人口の割合は

20年は25市町が10%を超えていたが、50年には10市町に減る。最低は西伊豆町の3・7%で、次いで東伊豆町の4・2%だった。一方で、35～40年を境に増加、または横ばいとなる市町も多く、下げ止まりの傾向もみられた。

(政治部・池谷遥子)